

大正期の 東海道ブーム

2026 10.10(土) ▶ 11.23(月)

開館時間 9:00-17:00 (入館は 16:30 まで)

休館日 月曜日 ただし 10/12, 11/23(月)は開館し翌日休館

豊橋市二川宿本陣資料館

441-3155 豊橋市二川町字中町 65

0532-41-8580

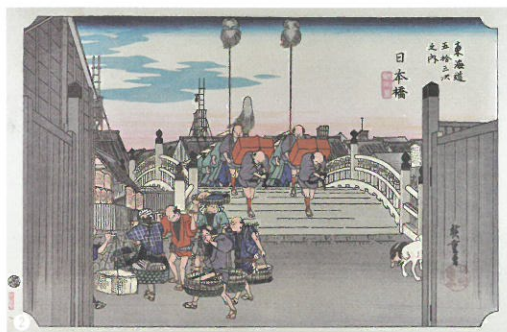


観覧料 一般 500円(400円)
小中高生 100円(80円)

- 市内在住の70歳以上100(80)円
- ()内は30名以上の団体料金・前売り料金・市内在住の70歳以上は団体のみ。
- 前売券は購入した日の翌日から使用でき、当館のほか市役所じょうほうひろば・豊橋市美術博物館で販売しています。
- 高校生・市内在住の70歳以上の方は学生証・身分証明書を提示してください。
- ほの国こどもバスポートをお持ちの小中学生は無料です。
- 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付添の方1名は無料です(ミライロIDが使用できます)。

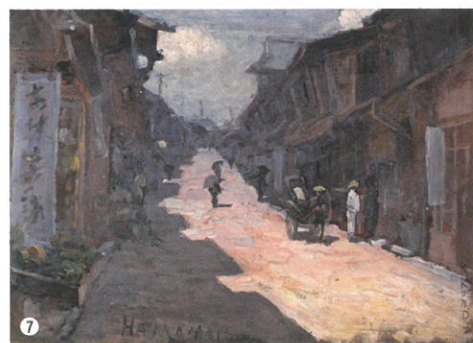
写真 水島爾保布《亀山(宿入口)》「東海道五十三次附瀬戸内海」より
大正9年(1920) 当館蔵(早川コレクション)
モノクロの作品に着色加工

主催 豊橋市二川宿本陣資料館
協力 立命館大学アート・リサーチセンター



宿駅制度の廃止から半世紀が過ぎた大正期。鉄道網が全国に広がりを見せ、バスなどの自動車輸送も登場するなど、交通体系が変化するなかで、東海道の徒歩旅行は過去のものとなっていました。一方で東海道を懐古する動きも見られ、東海道の風景が描かれた浮世絵をさまざまな手法で複製する版元や、東海道を旅行して作品を制作する画家や漫画家、文化人が多くみられました。こうした作品からは、徒歩の旅への憧れや東海道各所に刻まれた文化的な蓄積への敬意や親しみを背景に、新しい技術や感覚によって時代にあつた東海道を描きなおそうという意欲が感じられます。本展では、それらの作品とともに近代の東海道を巡ることといたします。

大正期の東海道ブーム



2026 10.10(土) ▶ 11.23(月)

開館時間 9:00-17:00 (入館は 16:30 まで)
休 館 月曜日 ただし 10/12, 11/23(月) は開館し翌日休館

講演会「漫画家が描いた大正期の東海道」 10/10(土) 14:00

■講師 佐藤弘隆氏 (立命館大学デザイン・アート学部准教授)
■当館講義室 (定員50名) ■要入館料
■お申込みは 10/9(金) 17:00 までに電話で

弁士付き無声映画上映会

「昭和初期の東海道ロードムービー」10/17(土) 14:00

■上映作品 弥次喜多 岡崎猫退治 吉村操 / 大岡怪童 昭和12年14分 大都
水戸黄門漫遊記 池田富保 / 山本嘉一 岡崎恵蔵 昭和12年27分 日活
弥次喜多 尊王の巻 池田富保 / 大河内伝次郎 河部五郎 昭和2年12分 日活
■弁士 山内菜々子氏 (マツダ映画社) ■当館講義室 (定員50名)
■要入館料 ■お申込みは 9/12(土) 10:00 から電話で



ギャラリートーク 10/31(土) 14:00

■講師 当館学芸員
■企画展示室 ■要入館料

写真 / ①大谷尊由《箱根ノ二 芦ノ湖の逆富士》『東海道五十三次絵巻』より 大正8年(1919) ②歌川広重《東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景》『東海道五十三次風景続画』より 大正7年(1918) ③亀井竹二郎《赤阪駅》『懷古東海道五十三次真景』より 明治25年(1892) ④岡本一平《日本橋》『東海道五十三次漫画絵巻』より 大正10-11年(1921-22) ⑤近藤浩一路《五右衛門風呂》『漫画東海道中膝栗毛』より 大正11年(1922) ⑥橋口五葉《京都三條大橋》大正9年(1920) ⑦近藤浩一路《五十三次シリーズ 浜松》明治42年(1909) ⑧: 当館蔵 (早川コレクション) ⑨: 当館蔵 ⑩: 個人蔵 ⑪: 山梨県立美術館蔵



441-3155 豊橋市二川町字中町 65
0532-41-8580
<http://www.futagawa-honjin.jp>

豊橋市二川宿本陣資料館